

漢方の待合室

No.12
2004 SEPTEMBER

口 臭

口臭とは？

口臭は呼気に混じり口腔を通じて発散される悪臭や不快臭をいいます。

治療の歴史は紀元前まで溯り、西洋ではヒポクラテス、東洋では釈迦が行ったという文献の記載がありますが、その後は大半の医師、歯科医師から疾患として認められず根本的な治療は行われませんでした。

口臭の分類

1960年代後半になって生化学的な研究が始まり、現在では一般的に、真性口臭症、仮性口臭症、口臭恐怖症の3つに大別されます。「真性口臭症」は実際に容認限度を超える口臭が認められるもので、器質的変化や原

因疾患を有する病的口臭とそれらが無い生理的口臭にさらに分類されます。「仮性口臭症」は本人は口臭を訴えますが、容認限度を超える口臭は認められず、カウンセリングなどによって訴えの改善が期待できるものです。「口臭恐怖症」は口臭が少ないまたはないにもかかわらず、本人が過度に意識してしまい社会生活を困難にしているものをいいます。

口臭の原因

ニンニク、タマネギなどニオイの強い食品を食べた後や起床時、疲労時に感じる口臭は一過性や生理的口臭であり、誰もが経験するものです。

病的口臭の原因の多くは歯科・口腔内疾患であり、歯周病などの膿性疾患では発生頻度が高く

なります。その他に耳鼻科、呼吸器、消化管疾患や全身性疾患に伴って生じることもあります。

治療

原疾患を有している場合はそれらの治療を行い、歯磨きやうがいなどで口腔内を清潔に保つことが有効と考えられます。

日本人はニオイに敏感だとよく言われますが、仮性口臭症や口臭恐怖症にはこの国民性が大きく影響しているといえます。とくに口臭恐怖症は、醜形恐怖症や対人恐怖症などの亜型とも考えられており、精神的な面が大きいため、多くの症例で治療に苦慮します。これらの場合は補助的に投薬を行いながら、カウンセリングなどの心身医学的治療を併用します。

今日の漢方処方……………半夏瀉心湯《傷寒論・金匱要略》

みぞおちがつかえ、腹がごろごろ鳴り、軟便または下痢傾向で、食欲不振、悪心、嘔吐、げっぷ、口臭を伴うものを目標とします。代表的な苦味健胃剤で、急・慢性胃腸炎、神経性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、消化不良、胃下垂、二日酔い、つわり、口内炎など、消化器症状の他、神経症、不眠などにも応用されます。

●● 半夏瀉心湯の構成生薬 ●●

ワ	レン	ニン	ジン
黄	連	人	参
ワ	苓	甘	草
ハ	芩	大	棗
半	夏		
カ	キョウ		
乾	姜		

半 夏

半夏は、日本でも田畑のあぜ道などに生えているサトイモ科の多年性植物で、地中の塊茎を生薬として用います。駆除しにくい雑草であることから「百姓泣かせ」の異名を持ち、茎の取れた跡が臍の様にへこんでいること、農作業の合間に採取して小遣い稼ぎをしたことから「へそくり」とも呼ばれました。また、生薬名の半夏とは、ちょうど半夏生（太陽の黄経が100度になる日で夏至から11日目）の頃に開花することに由来し、和名のカラスビシャクとは、花茎の先につく苞がひしゃくに似た形であることに由来します。



半夏を生食すると、強いえぐみがあり、舌・喉・口腔内がしびれ、ひどい時は腫れて痛み、口をあけるのも困難になります。この刺激作用は乾燥した塊茎にも認められますが、ショウガによって緩和されるため、半夏の配合される漢方処方の多くには、生姜や乾姜が併用されています。

古来より“吐き気”の要薬とされ、鎮静、鎮咳、去痰作用も有します。腹部振水音があり上逆するものの他、悪心、嘔吐、消化管の炎症、つわりなどの他、咳や喉の痛み、めまい、頭痛、不眠などにも応用されます。